

感染症学講座は2021年4月に開講されました。

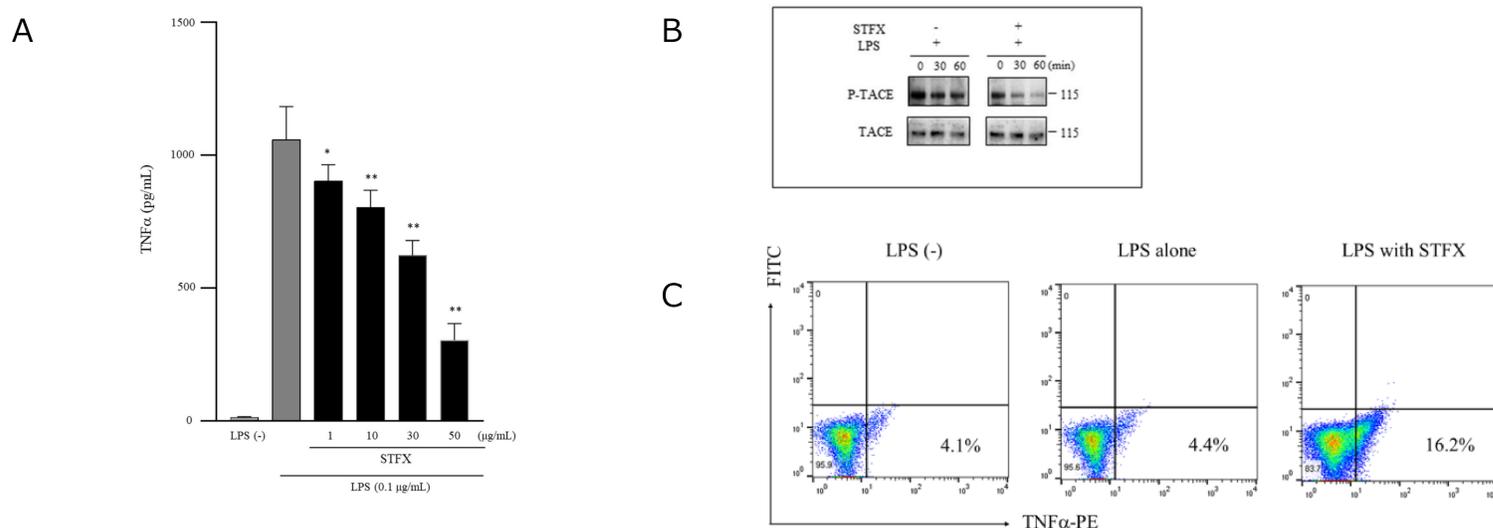
COVID-19パンデミックを経て、感染症専門医、感染症に強い医師、看護師といった医療従事者を養成することを目的としています。

研究では感染症とサイトカインをテーマに、特に抗菌薬の抗炎症作用に関して基礎研究、臨床研究を進めています。



1. Sitafloxacin reduces tumor necrosis factor alpha (TNF α) converting enzyme (TACE) phosphorylation and activity to inhibit TNF α release from lipopolysaccharide-stimulated THP-1 cells

Ippei Sakamaki, Michika Fukushi, Wakana Ohashi, Yukie Tanaka, Kazuhiro Itoh, Kei Tomihara, Yoshihiro Yamamoto, Hiromichi Iwasaki



シタフロキサシン (STFX) はキノロン系の広域スペクトル抗生物質です。

LPSはグラム陰性菌の外膜の成分ですが、免疫を担う細胞はLPSを認識し、炎症性サイトカインであるTNF α を発現します。

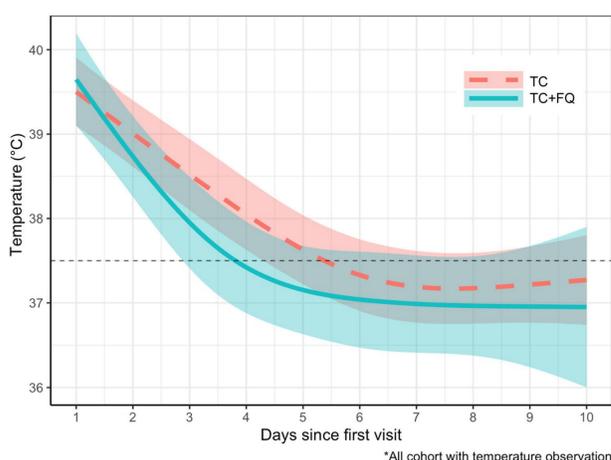
我々は、LPS刺激した単球系細胞を用い、STFXが用量依存的にTNF α 産生を効果的に抑制することを発見しました(A)。

STFXは細胞は、TNF α 変換酵素 (TACE) のリン酸化を阻害し(B)、活性TNF α 放出を抑制しました(C)。

これらから、STFX は細菌に効果がある抗菌薬であることに加えて、炎症を抑制する可能性があることを示しました。

2. Evaluation of tetracycline and fluoroquinolone therapy against Japanese spotted fever: Analysis based on individual data from case reports and case series

Kazuhiro Itoh, Daijiro Kabata, Hiroko Shigemi, Tomoya Hirota, Ippei Sakamaki, Hiroshi Tsutani, Yasuhiko Mitsuke, Hiromichi Iwasaki



日本紅斑熱は、*Rickettsia japonica*というマダニが媒介するリケッチアに感染することで発症し、発熱、皮疹を呈し、ときに重症化し死亡することがある疾患です。

テトラサイクリン系の抗菌薬により治療しますが、これまで経験的にキノロン系抗菌薬と併用による治療が行われていた症例もありました。

我々は過去の論文を解析し、併用療法の方が約1.5日早く解熱することを報告しました。